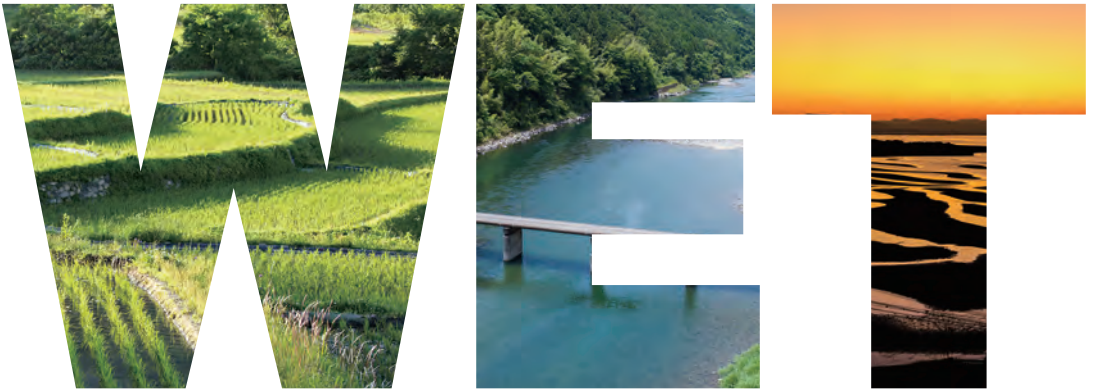


Wetlands GreenWave

水のつながり 命のつながり

湿地のグリーンウェイブ2023

Ramsar Network Japan ラムサール・ネットワーク日本

WETLANDS GREEN WAVE

『世界湿地概況2021特別版』を活用しよう！

ラムサール・ネットワーク日本 共同代表　永井 光弘

2023年2月に『世界湿地概況2021特別版』(GWO2021特別版)日本語版が環境省から発行されました(環境省HPからダウンロード可)。これは2018年に発表された『世界湿地概況』(GWO)を補完し、GWO以降の湿地の評価や科学的知見を引用し、最新の湿地の傾向、賢明な利用と保全に関する教訓、湿地が直面する課題へのラムサール条約の活用、を述べています。その見どころを、一部だけですが紹介します。

1. コロナ禍の経験により、湿地を含む自然にふれあうことが人間のメンタルを含む健康にとって重要だ、ということが再確認されました。また、湿地を保全し生物多様性を保護することがパンデミックの予防戦略になるとも位置付けています(項目1.1、3.2)。

2. 世界で湿地の消失と悪化は続いていますが(2.1)、ラムサール条約の戦略計画をきちんと実行していれば湿地の生態学的特徴は改善傾向にあるとの報告があります。2024年までカバーする現行第４次戦略計画を着実に進めるとともに、2025年からの第５次戦略計画にも注目しましょう。

3. 農業が湿地に与える負の影響が明らかになりました(2.3、3.4、2.1)。増え続ける人口を養うため農業は不可欠なのですが、ラムサール条約湿地の50%以上が農業から負の影響を受け、世界の淡水の約70%は農業に使用されています。持続可能でない農業は、湿地を破壊し、結局は農業自体へも悪影響が跳ね返るのです。田んぼの生物多様性を高める有機農業を進めるなど湿地にやさしい持続可能な農業の一層の推進が期待されます。

4. 湿地の保全・再生が多くのSDG目標と関係していることが明らかとなりました(3.1)。
健全な内陸湿地を守ることは、SDG目標6(きれいな水)だけでなく、富栄養化から沿岸湿地を守り(目標14:海の豊かさ)、沿岸域の魚の漁獲量を増やします(目標２:飢餓ゼロ)。湿地により心の健康が向上し(目標３:健康と福祉)、湿地の強力な炭素貯留能力が利用でき(目標13:気候変動)、さらに、健全な湿地利益の公正な分配(例:国境をまたぐ川のダム問題)は平和構築にも寄与します(目標16:平和と公正)。

5. ブルーカーボン生態系(マングローブ林、塩性湿地、海草など)や泥炭地(ピートランド)は、強力な炭素貯留能力を持つ湿地です(3.3、2.2)。ラムサール条約湿地内のマングローブ林には合計で1.61ギガトンの炭素貯留が推定され、泥炭地では少なく見積もっても約600ギガトン！の炭素が貯留され、並はずれて効果的です。ただ、泥炭地は湿っているから炭素を貯留しているので、乾いてしまうと途端に強大な炭素排出源となってしまいます。泥炭地の破壊が進んだ結果、今でも人為的な温室効果ガス発生量の約4%は泥炭地からの排出となっています。保全だけでなく、再生(再湿潤化)も必要なのです。

6. 気候危機・生物多様性危機という課題に取り組み、SDG目標を達成するには、湿地生態系が重要な役割を果たすという認識が広がっており(4.2)、湿地の賢明な利用を目指すラムサール条約の使命はさらに差し迫り、かつてないほど明白になっています。

GWOに加え、GWO2021特別版を活用することにより、湿地の保全・再生を通じ、世界が直面する課題に立ち向かっていきましょう。ぜひ一度手に取って眺めてみてください。

2030昆明・モントリオール生物多様性枠組みと生物多様性国家戦略

ラムサール・ネットワーク日本 理事　安藤 よしの

2022年12月、カナダのモントリオールで開催された生物多様性条約COP15（議長国：中国）で、2010年の愛知目標に替る新たな生物多様性世界目標が採択されました。この新枠組では、2030 年までの緊急の行動のための23の行動目標が定められています。2030年までにこれらの目標を達成し、長期目標（2050年ビジョン）である「自然と共生する社会」の実現を目指すことになります。愛知目標は一部を除き達成できなかったために、新目標は数値目標を増やし、具体的な目標にする等の工夫がなされています。各国は生物多様性国家戦略に新目標を十分に組込み、国別の意欲的な目標に取り組むことが期待されています。

これら23の目標の中でも、行動目標２と、行動目標3は、湿地保全活動に特に関係性の深いものであろうと考えます。

行動目標２.「生物多様性と生態系の機能及びサービス、生態学的健全性及び連結性を強化するために、2030 年までに、劣化した陸域、陸水域、沿岸域及び海域の生態系の少なくとも 30%で効果的な再生が行われることを確保する。」

陸域・水・海域を足して30%（愛知目標では劣化した生態系の少なくとも15%以上の回復）以上の生態系の再生が行われているようにということで、消失・劣化の著しい湿地生態系の再生事業を強く求めてきたし、小規模であっても、例えば河川流域の放棄水田や埋め立ててしまった土地をEco-DRRとして湿地に戻すなどの事業が行われるように働きかけていくことも考えられます。

行動目標３.「2030 年までに、陸域、陸水域並びに沿岸域及び海域の少なくとも30%、とりわけ生物多様性と生態系の機能及びサービスにとって特に重要な地域が、先住民の伝統的領域を認識しつつ、生態学的に代表的で良く連結され衡平に統治された保護地域システム及びその他の効果的な地域をベースとする保全手段を通じて効果的に保全及び管理されることを確実及 び可能にするとともに、適用可能な場合には、より広域の陸上景観、海洋景観及び海洋に統 合されることを確保及び可能にする。一方で、このような地域において適切な場合には、伝統的領域に関するものを含む先住民及び地域社会の権利を認識及び尊重しつつ、いかなる 持続可能な利用は保全の結果と完全に整合させることを確保する。」

この目標では保護地域を陸・陸水域・沿岸海洋のそれぞれで少なくとも30%まで増やすことが求められています。国立公園などだけではなく、社寺林や企業が管理する緑地など、目的が自然保護ではないものの、結果として生物多様性にとって重要な場所を効果的に守り管理している地域もOECM（Other Effective Conservation Method）として含め、増やしていこうというものです。すでに日本では「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定し、その「自然共生サイト」区域のうち、保護地域との重複を除いた区域を「OECM」として登録することが環境省主導で検討されています。

この自然共生サイトの要件はなお検討中となっていますが、ふゆみず田んぼなどの農地も候補となるでしょうし、重要湿地を含めた河川流域、干潟なども候補として検討するようにと働きかけることや、民間による保全のための資金創出を求めていくことも大切だと思います。

2022 CBD COP15　昆明モントリオール

その他にも・プラスチック汚染の根絶と、過剰施肥と農薬のリスク半減・気候変動対策による自然破壊を最小にする・持続可能な農林水産業・都市の緑地と親水地域を増やすなど、湿地に関係する目標が多くあります。これらに目を通しておくことは、地域の湿地保全をめぐる行政との交渉のために役に立つと思います。

昆明・モントリオール生物多様性ターゲットの環境省仮訳は以下となります。

https://www.env.go.jp/content/000107439.pdf

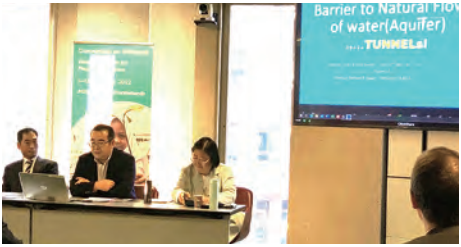
ラムサール条約COP14でのラムサール・ネットワーク日本の活躍

ラムサール・ネットワーク日本 理事　原野 好正

2022年11月5日から13日にかけて、スイス・ジュネーブと中国・武漢をオンラインでつなぐ形で、ラムサール条約第14回締約国会議（COP14）が開催されました。COP14は、2021年に中国・武漢で開催される予定でしたが、コロナ禍により日程と会場を変更しての開催となりました。

ラムネットＪからは7名のメンバーが現地参加するとともに、IUCN日本委員会の「国際体験継承事業」に参加した2名のユースに対して、参加メンバーがメンターとして指導しました。

参加したメンバーは、本会議の傍聴や各国のNGOや政府関係者との意見交換を行うとともに、ブース展示も展開しました。また、COP会場の近隣にあるIUCN（国際自然保護連盟）の本部を表敬訪問しました。



サイドイベントで「水の自然な流れ」について報告する永井共同代表

■決議

本会議では21の決議が採択されました。

その中には、公教育で湿地を学ぶカリキュラムを推奨するものや、ユースを通じたラムサール条約とのつながりの強化など、次世代が湿地の保全・賢明な利用に深く関わる道筋を強化するものがあります。

また、気候危機・生物多様性危機に対して、湿地を「自然を活かした解決策」と位置づける決議もありました。

■サイドイベント

国際会議では午前と午後に本会議が開催されますが、昼休みや夕方の時間帯に「サイドイベント」が開催されます。これはさまざまなテーマに沿って行われるミニシンポジウムのようなイベントで、COPに参加する各国代表やNGO、研究者などが自由に参加、交流することができるものです。ラムネットＪも2つのサイドイベントを開始しました。1つは、「田んぼの生物多様性」に関するもので、環境省、農林水産省、渡良瀬遊水地保全・利用協議会などとの共催で開催しました。

もう1つは「水の自然な流れ」に関するものです。これは、開発行政へのアンチテーゼとして「水の自然な流れ」の重要性を訴え、自然の水循環を阻む人工構造物を最低限にとどめることを提唱したものです。

■NGO会議

湿地にかかわるNGOの国際的なネットワークWWN（World Wetland NGO Network）というものがあります。ラムネットＪも参画していて、定期的に開催されるオンライン会議にも参加していますが、COPの会期中は各国から参加したNGOメンバーたちと直接交流できる貴重な場でもあります。

COP14では、毎朝本会議開催前にWWNとユースのネットワークYEW（Youth Engaged in Wetland）が合同でミーティングを行い、情報交換や戦略会議を行いました。そして、閉会時の本会議でWWNとしてステートメントを発表し、ラムサール条約会議が市民社会や若者と連携を強化するための具体例などを提示しました。

■呉地正行氏のラムサール賞受賞

ラムサール条約には、「ラムサール賞」という、世界の湿地の保全・賢明な利用に貢献した個人・組織・政府の功績をたたえるものがあります。1996年のCOP6以降、毎回授賞式が開催されていますが、今回はラムネットＪの理事の呉地正行さんがこの賞の「ワイズユース部門」を受賞しました。日本人としては中村玲子氏、辻井達一氏に続く3人目の受賞で、ワイズユース部門としては日本人初の受賞です。

ワイズユース（湿地の賢明な利用）部門は、湿地の長期的かつ持続可能な利用に大きく貢献したことを表彰するもので、呉地さんは、アジア・オーストラリア地域間の渡り鳥経路と渡り鳥の保護に長期的に取り組み、絶滅危惧の鳥類の回復に貢献したことが評価されて受賞しました。

呉地正行氏（左から2人目）　ラムサール賞受賞者と記念撮影

「湿地のグリーンウェイブ」とは

「国際生物多様性の日」の5月22日を中心に、生物多様性を向上させる活動が世界各地で開催されました。この取り組みを湿地で拡げるために、ラムサール・ネットワーク日本は、2011年から「湿地のグリーンウェイブ」として独自にキャンペーンを展開しています。ラムサール条約事務局が発行した『世界湿地概況（GWO）2021』によれば、世界の湿地は1970年以降35%が消失していて、最も危機的な生態系の1つです。湿地で生育・生息する生きものの4分の1が絶滅の危機に瀕しています。一方、2022年に開催された生物多様性条約COP15では、新しい世界目標「昆明／モントリオール生物多様性枠組み」が採択され、日本の生物多様性国家戦略も改定されます。私たちにできる活動は小さなものかもしれませんが、小さな一滴（ひとしずく）がやがて大きなうねりとなるように、湿地のグリーンウェイブを大きく育て、「人と自然の共生する社会」の実現を目指しましょう。

●キャンペーンの期間／5月22日（国際生物多様性の日）を中心とした4月〜7月

湿地のグリーンウェイブ2023 キックオフミーティング

湿地のグリーンウェイブ2023の開幕を告げるイベントをオンラインで開催します。今回は、OECM（Other effective area-based conservation measures）について、環境省の担当者に講演をしていただくほか、湿地のグリーンウェイブ2023の登録団体が各地の湿地についてアピールします。どなたでもZoomでご参加いただけます。

▶日時：2023年4月8日（土）18:00〜20:00　▶参加方法：オンライン（Zoom）　※要事前登録/参加無料

▶登録方法：右記のウェブフォームからお申し込みください。https://forms.gle/8BPF1jTvkVR2XeeG7

［プログラム］・基調講演：「OECMと湿地の保全（仮題）」　講師：石川 拓也さん（環境省自然環境計画課）

・全国各地の湿地自慢：湿地のグリーンウェイブ2023登録団体による湿地や保全活動の紹介

●お問い合わせ　ラムネットJ　E-mail : info@ramnet-j.org

湿地のグリーンウェイブは多くの自然保護団体の協力で支えられています（順不同）

(公財)世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）

WWFは100 カ国以上で活動している環境保全団体で、1961 年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、サステナブルな社会の実現を推し進めています。急激に失われつつある生物多様性の豊かさの回復と、地球温暖化防止のための脱炭素社会の実現に向けて、希少な野生生物の保全や、持続可能な生産と消費の促進を行なっています。また、WWFジャパンでは、日本の水田の自然を守りながら、海外で生産される綿製品などの生産改善を通した世界の湿地を保全する取り組みも行っています。

https://www.wwf.or.jp/

(公財)日本野鳥の会

(公財)日本野鳥の会は、1934年に創設された自然保護団体です。創設者・中西悟堂の「鳥たちを守ることは、日本の山河を守ること」という思想を原点に、野鳥を通して自然に親しみ、自然を守る活動を全国の86連携団体(支部)とともに展開しています。

野鳥と人が共に暮らせる生物多様性に富んだ自然環境の保全のために、絶滅危惧種の保護や生息地の保全、政策提言、バードウォッチングの普及等の活動を行っています。湿地保全のために、その貴重さを伝えるイベントの開催や新規のラムサール条約湿地登録を目指す地元の活動を支援しています。

https://www.wbsj.org/

(公財)国際自然保護連合日本委員会

国際自然保護連合日本委員会は、ラムサール条約事務局を務める国際自然保護連合（IUCN）の日本の会員団体である、外務省、環境省、日本自然保護協会等から成る組織です。IUCNとの連携、湿地含む包括条約「生物多様性条約」が定める「昆明―モントリオール生物多様性世界枠組み」実施に向けて、NGOや企業、自治体等との連携を進めています。

http://www.iucn.jp

(公財)日本自然保護協会（NACS-J）

自然のちからで、明日をひらく。

私たちは、人と自然がともに生き、赤ちゃんからお年寄りまでが美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会をつくることを目指して活動しています。

私たちは、NGO（非政府組織）として、権力や勢力に左右されず、独立した組織として、透明性・公平性を維持し、科学的な根拠にもとづく自然保護活動を行っています。

かけがえのない自然環境や絶滅危惧種とその生息地を守る活動や自然の恵みを活かした地域づくり、自然とのふれあいの機会や守り手を増やす活動をしています。

https://www.nacsj.or.jp/

特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合

オランダに本部を置く国際的なNGO、Wetlands Internationalの日本支部として、世界的に減少している湿地の保全や再生を図り、ワイズユース（賢明な利用）を促進することを目的としています。研究者と連携した生物多様性調査の実施、地域のNGOや自治体と連携したワイズユースの推進、市民調査を通じた環境教育、防災・減災に着目した伝統知の収集や発信、国連世界湿地の日（2月2日）のイベント開催、国際連携など、幅広い活動を行っています。また、官庁や地方自治体が推進する湿地政策の支援やラムサール条約登録湿地に関する情報発信なども行っています。

https://japan.wetlands.org/ja/

水田 【北海道】

株式会社 アレフ・えこりん村

生きもの育む田んぼで
お米作りを体験！
新千歳空港から好アクセス

ハンバーグレストランびっくりドンキーを全国展開する株式会社アレフは、北海道恵庭市の自社施設えこりん村内に「ふゆみずたんぼ」を公開しています。約１反の小さな田んぼですが、農薬を使用しない、生きものにやさしいお米作りをしており、30種類以上のトンボやさまざまな水辺の生きものが観察できます。周囲に池、林、川がある自然に恵まれた環境の中、田植えや稲刈り、脱穀などのお米づくり、生きものの観察会や外来種カエルの駆除、わら細工等、お米作りと生物多様性、稲作文化を感じられる体験を開催しています。

http://www.ecorinvillage.com/
https://www.aleph-inc.co.jp/
TEL 0123-34-7800（えこりん村サポートセンター受付時間 9:30～17:00）

湿原、湖沼 【北海道】

ヨコハマタイヤリトレッド(株) 北海道事業所

ウトナイ湖の環境を守り
自然と共存！

ウトナイ湖湿地の自然観察路周辺の外来植物分布を調べて外来種オオアワダチソウが多い地点で抜き取りを行い、その場所の抜き取り効果を確認しています。「外来種とは？」「なぜ除去する必要があるのか？」を勉強し、日本野鳥の会が日本で最初に開設したサンクチュアリ（野鳥鳥獣の生息地の保全や来訪者が自然を直接体験する場所）の保全協力活動を通じて自然と共存を目指しています。2017年から始めた本活動は、ステークホルダーである関連会社も参加する大きな活動になりました。コロナ禍では従業員全員のみでの縮小活動になりましたが、昨年はヨモギ等たくさんの「在来種」の自生を確認。外来種が探せないほどでした。更に春秋は苫小牧市主催の「ゼロごみの日」に全従業員で同地区の清掃活動を行っています。

https://www.y-yokohama.com/group/ytr/
E-mail／hiroko.fukuda@y-yokohama.com
TEL 0144-58-2411

湖沼、水田、ため池 【宮城県】

陸前古川水生植物研究会

「水田雑草」という「雑草」はない

「陸前古川水生植物研究会」は、2022年1月に有志により発足しました。水草を中心に宮城県北で植物の調査を行うことがおもな活動の一つです。宮城県北では、年々湿地が減少しているものの、田園地帯が広がる場所が残っており、大小さまざまな河川や湖沼が散在し、豊かな自然環境が見られる場所もあります。宮城県では絶滅が危惧されているような植物が残っていることも多いようです。 こうした植物の分布を調査し、保全活動につなげていくことができればと考え、諸活動に取り組んでいきます。

湿原 【栃木県】

小山市渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会

渡良瀬遊水地の豊かな
自然をボランティアガイドが
ご案内します。

ラムサール条約登録湿地 渡良瀬遊水地の四季折々の自然の魅力や周辺地域の歴史・文化をガイド活動を通じて発信しています。児童生徒の社会科学習や一般のみなさんへのガイド活動に加え、渡良瀬遊水地のヨシを使ったミニヨシズやヨシ灯り作り講座を実施するなど、さまざまな遊水地に関わるイベントで活動しています。渡良瀬遊水地の自然を広く一般のみなさんにも楽しんでいただくため「第２調節池自然観察会」を年4回開催しています。おやま市民大学渡良瀬遊水地ボランティアガイド養成講座を履修したメンバーがみなさんをお迎えします。より多くのみなさんに気軽に参加いただきたいと思います。

https://sites.google.com/view/oyamawatarase
E-mail／oyama.watarase.guide@gmail.com
TEL 0285-22-9354

湿原、湖沼、水田、河川、里山 【栃木県】

特定非営利活動法人わたらせ未来基金

ラムサール条約の理念に
基づいた湿地の保全・再生を
渡良瀬遊水地から・・・

わたらせ未来基金は、広く環境に関心をもつ人びとに対して、環境保全活動、調査研究活動、人材育成事業を行い、ラムサール条約の３つの理念（湿地の保全・再生、賢明な利用、CEPA）に則り、渡良瀬川流域の生態系の多様性を保全・再生させ、コウノトリやトキも生息できることを目標として、自然と調和した持続可能な流域社会システムの構築を行うことを目的としています。
日々、湿地のメンテナンスや調査、自然観察会、渡良瀬遊水地のヨシの有効活用に取り組んでいます。

https://www.watarase-mirai.org/
E-mail／info@watarase-mirai.org
TEL 0280-51-4593

河川 【静岡県】

市民部活　浜松・魚部

生き物観察会を通じて発見
☆気づき感性を磨く
お手伝いします。

誰でも気軽に参加できる市民部活！
『自然に興味あるけど、どう接すればいいかわからない』という人たちに、遊びを通じて身近な自然や生きものに出会う楽しさや、おもしろさ不思議さを感じていろんなことに気づき、自然に対する感性を磨きます。
☆浜松・魚部、遊びがメインな市民部活です。

https://instagram.com/hamamatsu.gyobu?igshid=YmMyMTA2M2Y=
E-mail／shizuoka.gyobu@gmail.com
TEL 090-5118-0926

室内、ラムサール条約登録湿地全般 【愛知県】

劇団シンデレラ

「夢と希望と冒険
自然と共に生きる」を
テーマにミュージカルを
上演しています。

「夢と希望と冒険、そして自然を守る」をテーマに、これまで数多くの「自然環境の保全」「森林の保全」「野生生物との共存」「SDGs」をテーマとしたミュージカルを、愛知県尾張地方を中心に上演してきました。「自然保護」を声高に訴えるのではなく、ときに笑いや涙も交え、子ども～大人まで、さまざまな人たちに楽しんでいただきながら伝えています。

https://cinderella.studio.site/
E-mail／flawless_tomoko@yahoo.co.jp
TEL 090-8499-0029

河口・汽水域、砂浜・干潟 【愛知県】

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

藤前干潟とその流域、
生物多様性を保全する活動を
展開しています。

藤前干潟を名古屋市のごみ処分場建設計画から守るために、1987年に活動を開始しました。その後、1999年の計画中止および保全確定を経て、2002年のラムサール条約登録を期に、2003年にNPO法人格を取得しました。私たちNPO法人藤前干潟を守る会は、藤前干潟の保全の歴史。そこに見える、環境保全のメッセージを多くの人に伝え、藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。今年も「干潟の学校」（観察会）などさまざまなイベントを予定しておりますので、ぜひ、遊びにいらしてください。

http://fujimae.org/
E-mail／info@fujimae.org
TEL 080-5157-2002

河川、里山、ため池 【三重県】

魚と子どものネットワーク

魚が棲める水環境を次世代に・・・

魚と子どものネットワークは魚が棲める水環境を保全し、それを次世代に伝えていくことを目的として設立されました。水辺に魚が泳ぎ、子どもたちがイキイキと暮らせる環境は、自然環境としても、社会環境としてもすばらしいものではないでしょうか。そんな光景をいつまでも見続けられるようにしたいという想いが、私たちの活動の原動力となっています。さまざまなネットワークを通して私たちの活動を知ってもらい、同じような考えをもっている仲間をみつけたいと思っています。また、組織や縦割りの枠をこえて情報や想いを発信し、人と人をつなぐコーディネーターの役割を果たせればと思います。

http://sakanatokodomo.web.fc2.com/
E-mail／maeterlinck_fantasy@hotmail.co.jp
TEL 090-1478-4756

湿原、水田、里山 【福井県】

NPO法人中池見ねっと

ラムサール条約湿地・
中池見湿地を
未来の子どもたちへ

NPO法人中池見ねっとは、福井県敦賀市にあるラムサール条約湿地・中池見湿地の生物多様性の保全及び湿地の持続可能な利用を図り、自然と人間が共生する豊かな社会の実現に寄与することを目的として2008年に設立しました。以降、水田生態系保全のための「ミニ田んぼサポーター事業」をはじめ、外来生物の防除活動に力を入れてきました。また昨年には「中池見サポーターズバンク」を立ち上げ、誰でも湿地の保全活動に気軽に関われる仕組みづくりを進めながら、生き物豊かな湿地の魅力を伝えています。

https://nakaikeminet.raindrop.jp/
E-mail／info@nakaikeminet.raindrop.jp
TEL 090-8269-9801

河口・汽水域、砂浜・干潟 【大阪府】

公益社団法人
大阪自然環境保全協会
夢洲いきもの調査グループ

大阪南港野鳥園と夢洲を
ラムサール登録湿地に

私たちは公益社団法人大阪自然環境保全協会内のグループで、夢洲の自然環境の保全・再生を目指しています。大阪湾の埋立地、夢洲には湿地、砂礫地、草地など多様な環境ができ、セイタカシギやコアジサシ、水草のカワツルモなど多様な生物が暮らしていました。しかし、そうした自然は2025年万博やIRなど開発によって失われつつあります。私たちは生物を調査するとともに、大阪市や博覧会協会と交渉し生物保護・自然再生を訴えています。2023年度に学習会などイベントを実施する予定です。

http://www.nature.or.jp/index.html
https://nature.web-stroll.com/inquiry/inquiry/
TEL 06-6242-8720

湿原、河川、里山、ため池 【大阪府】

和亀保護の会

ニホンイシガメが
当たり前に棲む水辺へ！

在来種の淡水性カメ類の保護を目的に2004年に設立。大阪府茨木市・摂津市を流れる大正川と兵庫県東播磨地域のため池、福井県敦賀市の中池見湿地を中心に活動している。
おもな活動は１年を通しての捕獲調査、ミシシッピアカミミガメをはじめとする外来動植物の防除、活動地の清掃活動、イベントなどでの啓発活動。また活動で得られたデータをまとめて、研究会や学会で発表している。調査の現場ではできる限り地元の人びとや活動団体、行政と連携・協働するようにして、楽しく息の長い活動ができるよう心掛けている。活動は月に複数回行っているが、参加を希望される方はHPより連絡されたい。

http://www.wagamehogonokai.sakura.ne.jp/
E-mail／kamenanosa529@yahoo.co.jp
TEL 080-6159-8414

河口・汽水域、砂浜・干潟 【和歌山県】

和歌山大学教育学部生物学教室

一般市民を対象にしたゆる〜い干潟観察会です。

和歌浦干潟で春と秋に、有田川干潟で夏に観察会を行っています。就学前児童とその保護者といった親子連れでの参加が多いですが、お一人様も含めいろいろです。

E-mail／tkoga@wakayama-u.ac.jp
TEL 090-4499-3157

河口・汽水域、砂浜・干潟、埋め立て地 【岡山県】

たましま 干潟と鳥の会

たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい!!

岡山県倉敷市玉島地域で活動しています。たましまの未来に渡り鳥の集う干潟を残したい！！という思いで、現在飛来している、おもにシギ・チドリ類やコアジサシなどの飛来状況や繁殖調査、干潟や海辺の清掃活動、活動を県に報告するなどしています。今年は５月にシンポジウムも実施します！ 会員随時募集中です!!

https://tamashimahigata.wixsite.com/website
E-mail／tamashima.higata@gmail.com
TEL 090-6101-0238

湿原、里山、ため池 【香川県】

王越とんぼプロジェクト実行委員会

王越とんぼランドにはさまざまなトンボをはじめ、貴重な動植物が残っています。

「王越とんぼランド」にはさまざまなトンボをはじめ、貴重な動植物が残っています。解説だけの観察会ではなく、五感で感じながら子どもから大人まで一緒に自然を楽しむ「かんさつ会」を行い、地域の自然を守るには何が必要かを考えます。

https://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/syougaigakusyu/ougoshitonborando.html
TEL 0877-44-5025

砂浜・干潟 【徳島県】

NPO法人カイフネイチャーネットワーク

磯の生き物観察会

★磯にすんでいる生き物で、海がきれいかどうか調べよう。
★見つけた貝やさかな、ヤドカリでMY水族館をつくってみよう。

E-mail／hitocyan@mc.pikara.ne.jp
TEL 080-8472-0384

河川の他、釣りができるところ全般と森林保全や水辺の清掃など　【徳島県】

とくしま釣りの輪

発祥の釣り方・道具・場所のある徳島を釣りで元気に！と活動しています。

「釣りの力で徳島を元気にしたい！」と活動しています。構想としては、①釣りに関心を持ってもらうことで自然環境の保全　②水辺の安全や楽しみ創出　③釣りを観光資源に（関連業者の事業継承も含めて）　④伝統を次世代に（釣りを徳島の文化に押し上げる）、の４つを主軸に関わる人が楽しみながら、無理のない範囲で、それぞれが成果を実感しながら、継続できる取り組みを実現できないかと活動しております。
磯や波止でチヌやグレなどを狙うフカセ釣りは、「阿波釣法（ちょうほう）」と呼ばれ全国に広まった徳島が発祥の釣り方で、日本はもちろんアジアまで広がっています。徳島は日本でも有数の釣り先進県なのですが、その活用や発信、継承に力を入れることで新たな釣りファンを増やしていきたい。

https://ameblo.jp/tokushima-tsurinowa
E-mail／tokushima.tsurinowa@gmail.com

水田、河川、里山、河口・汽水域、砂浜、干潟、室内、その他（奥山）　【徳島県】

とくしま生物多様性リーダーチーム

素晴らしい自然の中で
「学び・遊び・食べて」
生物多様性リーダーになろう！

生物多様性とくしま戦略（2013）の行動目標１「人材育成」を達成すべく、「勝浦川流域フィールド講座（2014）」を開講し、講座修了生で生物多様性リーダーチーム（2015）を結成した。生物多様性リーダーチームは、講座の企画運営に携わりながら、チーム員のスキルアップを行っている。これまでに、写真展やフォーラムの開催などで広報をおこなってきた。講座の活動は、野外での体験を重視し、勝浦川源流域から河口域までをフィールドにしている。流域を活かした広葉樹林・棚田・人工林・里川・里山・里地・水田・干潟の環境と景観、人の創る文化や暮らしを通じて生物多様性の恵みを五感で体感しながら学ぶ。修了者には満足度の高い講座である。

E-mail／haji1899@yahoo.co.jp

砂浜・干潟　【徳島県】

吉野川ラムサールネットワーク

吉野川を未来のこどもたちに残していきたい

年間を通して、吉野川河口に関わる場所で身近に住む市民に向け「春のウォーキング」「清掃活動」「干潟の観察会」「市民カニ類調査」「ウラギク鑑賞会」を行っています。
また、吉野川河口域に関わる人たちの話や歴史を年間3～4回の通信として発行しています。

http://www.yoshinogawa-ram.net
E-mail／taikazann@hotmail.com
TEL 090-7268-9448

河口・汽水域、砂浜・干潟 【徳島県】

とくしま自然観察の会

空・川・海・ひとが出会う
吉野川河口を未来につなぐ

誰でも気軽に参加できる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら、自然について考えるためのネットワークづくりをしようと1994年に発足。おもなフィールドは吉野川と小松海岸。国内最大級の汽水域と河口干潟を有する吉野川と大きな砂浜の小松海岸は、森～川～海のつながりを感じることができるところです。観察会、市民調査、干潟の清掃活動、エコツアーなどのフィールド活動に加え、「吉野川河口みらい講座」のインターネット発信や「吉野川しおまねき探検隊」「吉野川ひがたファンクラブ」などの呼びかけを通して、自然とひとの暮らしとのかかわりを伝え、吉野川河口域の保全に関心を持つ人々の輪を広げていくために活動しています。さらに、吉野川河口を未来へとひきつぐために、四国初のラムサール条約湿地登録をめざしています。本会は『とくしまSATOUMIフレンドシップ団体』に認定されています。

https://shiomaneki.net
E-mail／kansatsunokai@gmail.com
TEL 088-623-6783

湿原、湖沼、水田、河川、ため池、ビオトープ、河口・汽水域、砂浜・干潟、浅海域、室内 【徳島県】

阿波魚類研究会

徳島の魚をとおして徳島を知る！

徳島県は吉野川や勝浦川、那賀川、海部川などたくさんの川が流れ、瀬戸内海や紀伊水道、太平洋といった多様な海域に面しています。これらの川や海の中には、多種多様な魚類が生息しています。
阿波魚類研究会は、徳島県に生息する魚類やそれらを取り巻く自然環境、地域文化の調査研究をとおして、徳島県の自然科学の活性化や自然環境保全を目指す団体です。県内の研究者や学校の先生など、いろいろな立場の人が集まって楽しみながら活動をしています。

E-mail／awagyoken@gmail.com

河川、河口・汽水域、砂浜・干潟 【徳島県】

特定非営利活動法人 川塾

川遊びを通して、
『川とひとをつなぐ』きっかけ
作りができればと考えます。

水辺の教室では、国内屈指の自然環境を持つ吉野川で、一年を通して遊び、学び、感じることで、吉野川の楽しさ、生態系の豊かさ, 四季折々の変化を肌で感じます。
また、地元の川漁師さんや吉野川で育った地元の方々を講師に招き、「川と共に生きる知恵や技術」を実践し、体感します。
それらを通じ、吉野川と自分達の暮らしとの関わりについて、感じ、考える事で、「吉野川は自分達の川」という意識を持ってもらいたいと思っています。

https://kawajyuku.com/
E-mail／kawatomoplus@gmail.com
TEL 080-6385-4200

湿原、水田、河川、ため池、ビオトープ 【徳島県】

NPO法人とくしま コウノトリ基金

コウノトリが舞う笑顔輝く未来に

コウノトリをはじめとする鳥類の保護活動と、その活動を通じて地域を元気にする取り組みを進めています。湿地に関しては、水生動物が豊富な水環境を増やすため、耕作放棄地を再生しビオトープとして整備しています。

https://www.t-stork.jp/
E-mail／info@t-stork.jp
TEL 090-2825-6721

河川、河口・汽水域、砂浜・干潟 【福岡県】

東朽網校区 まちづくり協議会 「水と緑の美化プロジェクト」 委員会

源流から干潟まで地域の豊かな自然を次世代へ!

まちづくりの一環として行う自然環境を守る活動で、東朽網校区の宝である源流から干潟までの豊かな自然を活かし、環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていく上で大人から子どもまで一緒に学ぶ体験型学習(水晶山清掃登山、昭和池清掃と植樹、朽網川河口海岸清掃(6/12、11/26)、カブトガニ産卵観察会(7/16)等)、春、秋の干潟の生き物と渡り鳥の観察会や草刈り、ゴミ拾いなど環境保全活動を実施しています。これらの活動を通して、山から海へ繋がる水環境が守られ次世代へ繋ぐことの大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを行っていくことを目的としています。地元企業や各団体、市民との協働での取り組みになっています。

E-mail／hk-sf@ktqc03.net
TEL 093-475-8861(東朽網市民センター内)

河口・汽水域、砂浜・干潟 【福岡県】

日本カブトガニを守る会 福岡支部

生きた化石「カブトガニ」の棲む海を未来に!

福岡県下のカブトガニの生息地である北九州市曽根干潟、福岡市今津干潟、糸島市加布里干潟の3地区でカブトガニの保護やカブトガニの棲む海の保全に取り組む団体です。産卵調査や幼体調査を主とした調査活動、漂着ゴミの片付けや産卵場の整備、漂着1齢幼生の救出保護などの保全・保護活動、観察会の開催やイベントへの参加、出前講座等の啓発活動を行いながら、カブトガニの棲む海を未来に残せるように地元住民や各種団体と協力しながら頑張っています。
特に国内でも有数の産卵・生息地である北九州市曽根干潟での活動に重点を置いています。

E-mail／shun5-taka8c@jcom.home.ne.jp
TEL 090-4356-8285

砂浜・干潟 【福岡県】

ウエットランドフォーラム

160万都市の中の干潟／
Urban-Wetland

和白干潟は、160万都市の中に残された自然豊かでとっても可憐な干潟です。広くはないけれどいろんな環境が揃っていて干潟観察や環境学習に最適の場所です（国指定鳥獣保護区／2003年）。一方で、急激な人口増加や、相次ぐ埋め立てなど多くの開発の影響を受けてきた干潟です。2023年は「SDGsで潮干狩り」というテーマで、アサリの調査や保全を地域と一緒に考える活動に取り組みます。子や孫にいつまでも潮干狩りができる干潟を残そう!!ということです。

https://wetland-forum.jimdofree.com/
E-mail／cocontei-matsu@nifty.com
TEL 080-5251-8677

砂浜・干潟 【長崎県】

「干潟を守る日2023 in 諫早」実行委員会

みんなの世論で有明海再生を実現しよう！

諫早湾は1997年4月16日、ギロチンと呼ばれる堤防で有明海から閉め切られました。以来、海の生きもの達をはじめ、環境破壊による人びとの暮らしは壊滅的な状況に陥っています。私たちはこの事態の解決に向けて、日夜行動を続けて行きます。

http://isahayabay.g2.xrea.com/
E-mail／dadao@mtd.biglobe.ne.jp
TEL 0957-53-4557

河川、河口・汽水域、砂浜・干潟 【熊本県】

八代野鳥愛好会

人と野鳥がともに
持続的利活用できる
干潟生態系を守ります

本会は、昭和63年（1988年）4月に創立されました。野鳥たちの暮らしが守られ、人と野鳥が上手に共生することを目指す活動を続けて35年になります。平成29年（2017年）からは球磨川河口干潟のラムサール条約登録を視野に入れた干潟の野鳥観察会、ラムサール条約学習会、八代海の生態系の保全と持続的利活用を考えるシンポジュウムなどを実施しました。平成30年（2018年）には「魚市場見学会」、「浜辺の大そうじ大会」、体験学習「アナジャコ釣り」などを行い、令和2年（2020年）には「次世代とともにがんばろ会」と協力して、「青少年水サミット2020 in 八代（オンライン）」を開催しました。湿地のグリーンウェイブ活動には、2011年から参加させていただき、シギ・チドリ類の渡りを応援し、干潟の重要性を紹介しています。ここ数年は、カモ類やカワウの生態にも目を向け、地域の営農・漁業と野鳥の共生のために私たちにできることを模索しています。

http://yatsushiro-birdclub.com
E-mail／nnjyj615@yahoo.co.jp
TEL 090-3328-4970

湿原 【宮崎県】

川南湿原を守る会

希少植物の芽吹きを願う

川南湿原は、川南町の中央部に広がる湿原です。標高50m前後、面積は約33,000㎡で、新橋溜池から東に植物群落が広がります。昭和49年に国指定天然記念物に指定されており、植物の種類は78科298分類で、湿生植物が約110種類、うち約50種類が希少植物です。
川南湿原は、希少植物保護のために平成7年度から調査を開始しました。平成15年度から本格的に整備工事を進め、平成22年度に整備が完了しました。湿原が一般公開されてからは、ボランティア団体「川南湿原を守る会」が園内の監視、案内、環境整備、植物の保護活動などに取り組んでいます。こうした地道な保全活動が実を結び、「未来に残したい草原の里100選」の一つに川南湿原が選ばれました。

https://www.town.kawaminami.miyazaki.jp/soshiki/12/1507.html
E-mail／sports@town.kawaminami.miyazaki.jp
TEL 0983-27-8020

浅海域 【沖縄県】

浦添西海岸の未来を考える会

浦添浦添西海岸に軍港要らない。
奇跡のこの海を守りたいの
公報活動と学習会を行います。

2020年10月に設立し、浦添西海岸を守りたいの活動をしています。2020年から6回の学習会や、スタンディング行動で、那覇軍港返還条件で県内移設先に決定された浦添西海岸が、県民にとってどれだけ貴重な奇跡の海なのか、共に学び伝えています。沖縄の原風景とも言える手つかずの自然海岸・浦添西海岸を、未来の子ども達に手渡していきましょう。県都那覇市に隣接する自然度の高い浦添西海岸の価値をもっと伝えていきましょう。世界や隣国と融和の懸け橋になるべき沖縄に、これ以上の軍事施設は要りません。この海が好きだの声を一緒にあげていきましょう。

FB・https://www.facebook.com/people/
浦添西海岸の未来を考える会/100064671884755/
Twitter・https://twitter.com/UrasoeMirai
Instagram・https://www.instagram.com/urasoemirai/
YouTube・:https://www.youtube.com/results?search_query=浦添西海岸の未来を考える会
E-mail／urasoe.mirai@gmail.com　TEL 080-8178-1362

水田、その他（畑、谷戸） 【千葉県】

土の学校

お米作り体験を通して
自然と親しみ、食と農について
学ぶ学校です。

「土の学校」は農業、農村文化、環境教育などに関心のある人たちが集まって有志で実施している「お米づくり体験学習」です。お米作り体験を通して自然と親しみ、共存することを考えるきっかけづくりと仲間づくりを目的として「土の学校」を企画・運営しています。土に触れたり、生産現場を見たり、農家の方たちと交流することが自然と私たちのつながりを考える上で大切なことだと実感しています。春から秋まで5回農業体験と交流をします。毎回ご飯とお味噌汁を作り、みんなでいただきます。

https://www.facebook.com/tsuchinogakko
E-mail／hyugge@hotmail.com
TEL 070-5579-1321

ラムサール･ネットワーク日本について

ラムサール･ネットワーク日本（略称：ラムネットJ）は、日本各地の湿地に関わるグループや個人から成り立っている湿地保全のための環境NGOです。2009年4月に設立し、同年9月にNPO法人として認可されました。

ラムネットJは、湿地保全のための国際条約であるラムサール条約の考え方･方法に基づき、すべての湿地の保全･再生、賢明な利用を実現するために、この「湿地のグリーンウェイブ」や「田んぼの生物･文化多様性2030年プロジェクト」といった普及啓発活動をはじめ、調査研究、政策提言などさまざまな取り組みを行っています。また、国際的なNGOである世界湿地ネットワークとともに、韓国など各国の湿地保全団体と連携した活動も行っています。

会員になって活動の支援をお願いします！

ラムネットＪの活動は、会員の皆さまからの会費やカンパ、助成金などでまかなっています。ぜひ、ラムネットＪのサポーター（一般賛助会員）になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保全にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。また、団体としての入会も可能です。

会員になると専用のメーリングリストに参加できます。また、年数回発行の「ラムネットＪニュースレター」をお送りします。

- 入会方法：郵便振替用紙（払込取扱票）の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Ｅメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。
- 年会費：一般賛助会員 2000 円、一般正会員 5000 円
- 送金先：ゆうちょ銀行　振替口座 00140-0-765702　ラムサール・ネットワーク日本
- カンパも上記の口座までお願いします。
- 詳しくはウェブサイトの入会案内（http://www.ramnet-j.org/join/）をご覧ください。

Ramsar Network Japan

〈問い合わせ先〉ラムサール･ネットワーク日本　湿地のグリーンウェイブ係
･ホームページ：http://www.ramnet-j.org/gw/
･フェイスブック：https://www.facebook.com/groups/2358414017722340/
･問い合わせ先：E-mail：gw@ramnet-j.org

主催／ラムサール･ネットワーク日本
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F　TEL/FAX 03-3834-6566
Eメール　info@ramnet-j.org　ウェブサイト http://www.ramnet-j.org/

後援／WWFジャパン、日本野鳥の会、日本自然保護協会、IUCN日本委員会、
日本国際湿地保全連合